

## 梅の園

森本 眞智子

「このあたりはどうかしら？」

「ああそこはなかなかいいね」

夫はカメラをかまえ

妻は白梅のかたわらで

さりげなくポーズをとってほほえむ

風が ふたりの白い髪を おだやかに乱す

別の夫婦がゆっくり 坂道を登ってくる

足の弱い夫を つと支える妻

梅の園には こんな夫婦がよく似合う

彼等は どんな人生を歩いてきたのだろう

焼き肉の匂いがしない

酔っぱらいがない

がなりたてるカラオケの音がない

梅の花には

人々を鎮静させる作用があるのかもしれない

句会でも開かれたであろうか

ところどころ 枝に下がった短冊の

見知らぬ人々の思いを

私も受け止める

ものおもわしげな冬が

立ち去りがたく居るので

私は はるかな追憶に閉じ込めた

悔恨のことばを出せず

また 口籠ってしまう

たぶん季節は

こんな日の こんな場所で

ひそかに 衣替えを始めているのかもしれない